

沖縄サテライト校 デジタルレコード 2019 No.5

タイトル	六月ウマチー（ルクグウチウマチー）（稲大祭）
撮 影 日	2019 年 7 月 16 日(火)・旧暦 6/14, 7/17 日(水)・旧暦 6/15
撮 影 地	沖縄県沖縄市知花
撮 影 者	加治工尚子
撮影環境	晴れ
権利処理	撮影許可・利用許可（口頭のみ）
説 明	一連の稲作儀礼のひとつ。2 月と 3 月には麦などの穀作儀礼、5 月と 6 月には稲作儀礼を執り行う。六月ウマチーは稲の収穫祭で、収穫した新米で作った神酒(ウンサク)を捧げて神に豊作を感謝する。 沖縄市知花地区では旧暦 6/13 は神酒(ウンサク)づくり、6/14 はカーブヤー（三味線蔓）のカーブヤー（草冠）や祭祀で用いる植物の束（ススキやアザカなど）づくり、6/15 日は各区の区長や神人（カミンチュ）（神職）が知花ノロ殿内に集まり持ち寄った神酒(ウンサク)を捧げて祈った後、場所を移してカンサチヤーでの儀式とイーヌトゥヌモーでの儀式を行う。神人や参加者らで地区の繁栄を祈る。神人に対して区長らが酒を捧げ、チチン（鼓）持ちが鼓を叩かせて縁起をつけてもらい、ウムイの斉唱が始まった。参加者は歌詞を見ながら、吹き込まれたウムイの音をラジカセで流しながらというスタイルであった。
索 引 語	ウマチー, 六月ウマチー, ルクグウチウマチー, 収穫祭, 稲大祭, 民俗行事
備 考	

◇ 資料画像（一部）

■ 旧 6/14 カーブヤーづくり 知花ノロ殿内にて



材料の植物



カーブヤーづくり



カーブヤーづくり



完成したカーブヤー(草冠)と
祭祀に用いる植物の束

■ 旧 6/15 ① 知花ノロ殿内にて



知花ノロ殿内の様子



持ち寄った神酒(ウンサク)



平御香（ヒラウコー）



神酒(ウンサク)



集まったみんなで神酒を
少量ずつ頂く

■ 旧 6/15 ② カンサヂヤーにて



儀式の様子（全体）

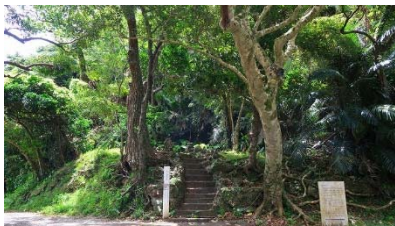


神人に神酒を捧げる



鼓を叩きウムイを斉唱する

■ 旧 6/15 ③ イーナトゥヌモー（上之殿毛）にて



イーヌトゥヌモー



今回は、倒木の危険があったため下の広場にて祈った



ユニガー(米川)：かつて知花ノロ殿内へ向かう際に手足を清めた井戸

沖縄サテライト校 デジタルレコード 2019 No.6

タイトル	四カ字（しかあざ）の豊年祭（プール）
撮影日	2019年7月24日（水）～26日（金）
撮影地	沖縄県石垣市字新川
撮影者	加治工尚子
撮影環境	晴れ
権利処理	撮影許可・利用許可（口頭のみ）
説明	石垣島の四ヶ字(登野城・大川・石垣・新川)で旧暦6月に行われる豊年祭では、五穀豊穡への感謝と来夏世（クナツユ）の実りを祈願する。石垣島最大の伝統行事。祭の前日の午後、字新川にある真乙姥嶽（マイツバオン）では綱づくりが行われ、夕方からは儀式や余興などの練習が行われる。 祭の初日はオンプールである。各字にある御嶽(オン)でブバナアギ（初穂揚げ）が行われる。字新川では、長崎嶽（ナースクオン）の拝殿ではミシャグパーシ（大神酒奉納）の儀式が執り行われ、その後、優良農家の表彰や婦人会青年会子どもたちによる祝賀会と余興へ続く。夕方には、真乙姥嶽にて翌日のリハーサルが行われた。 祭2日目はムラプールである。字新川は長崎嶽に集合し、旗頭の奉納と巻踊りの奉納などを行い、御嶽内を一巡する。その後、真乙姥嶽へと行列が出発する。真乙姥嶽の前に各字からの旗頭が集合し、字人は順々に御内へと進み巻踊を奉納する。 一連の奉納が終わると、五穀種子授けの儀が御の前で行われる。後に続くのは、女性だけのアヒャー綱である。ブルピトゥが神司からブル棒を受け取り、大綱のつなぎ目に棒を差し込んで綱を結びつけ、「サーサーサーサー」の掛け声で盛り上がる。 この後、大綱は西の会場へと運ばれて夕刻までしばらく待つ。夕闇が迫るころ東西から松明に先導された武者が長刀や鎌を持って登場し、綱の中央付近にてツナヌミンが行われる。武者が東西に離れた後、クライマックスの大綱曳きが行われる。
索引語	豊年祭、真乙姥嶽、長崎嶽、アヒャー綱、綱引き、オンプール、ムラプール
備考	

◇ 資料画像（一部）

■ 前日 祭りの準備



真乙姥嶽での大綱づくり



真乙姥嶽 巻踊りの練習

■ 初日 オンプール 字新川



長崎嶽 飾り付けされた鳥居



長崎嶽 拝殿にて
大神酒奉献 (ミシヤグパーシ)



真乙姥嶽
神事アヒャー綱のリハーサル

■ 2日目 ムラプール 各字の嶽での奉納 → 真乙姥嶽へ



長崎嶽での巻踊り
水ヌ主(クバ扇の女性)と長老たち



長崎嶽から真乙姥嶽へ
移動する新川の人々



奉納を終えて真乙姥嶽から
出る水ヌ主と長老たち



奉納を終えて真乙姥嶽から
出る女性たち (ゼイ)



真乙姥嶽前 五穀種子授けの儀
農の神と神女



真乙姥嶽前 アヒャー綱
ブル棒を持つブルピトゥ



真乙姥嶽前 アヒャー綱
ブルピトゥの東嵩西さん



真乙姥嶽前 アヒャー綱
ブルピトゥ (棒貫人)



真乙姥嶽前 アヒャー綱
神司へブル棒を返す



西の会場へ綱と旗頭が移動



西の会場 綱曳き 西大将



西の会場 綱曳き ツナヌミン



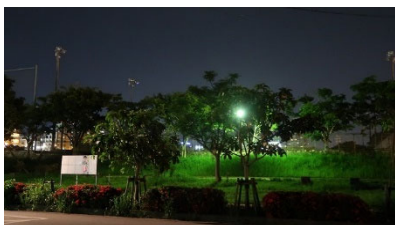
西の会場

大綱曳き終了後、旗頭が各字へ帰っていく

沖縄サテライト校 デジタルレコード 2019 No.7

タイトル	サガリバナ
撮影日	2019年7月8日(月) 23時頃
撮影地	那覇新都心公園付近の街路樹／沖縄県那覇市おもろまち(沖縄県南部地域)
撮影者	加治工尚子
撮影環境	薄曇り／25度
権利処理	-----
説明	熱帯や亜熱帯に分布するサガリバナ科の常緑高木。年中緑葉が付き、樹高は約3～15m。長さ50cm～1mほどの細い花序が垂れ下がり、そこに10～20個ほどの白やピンク色の花が開花する。一夜花ともよばれ、日が落ちた20時頃から開花しはじめ、夜中に満開になる。4枚の花弁の上部に細い糸状の雄しべが無数に並ぶ。花びらは明け方には散り、翌日新しいつぼみが次々とできる。見頃は6月末～7月後半。開花すると、遠くまで甘い香りが漂う。
索引語	サガリバナ, 一夜花, 街路樹, 新都心公園, 沖縄
備考	撮影機材 Canon PowerShot G7X Mark II

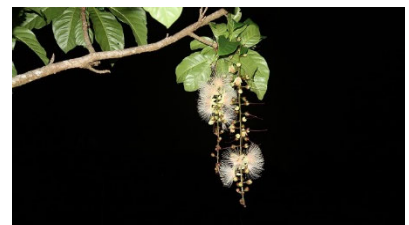
◇ 資料画像 (一部)



新都心公園



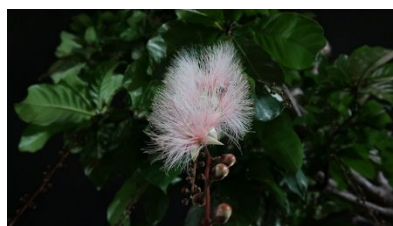
サガリバナ



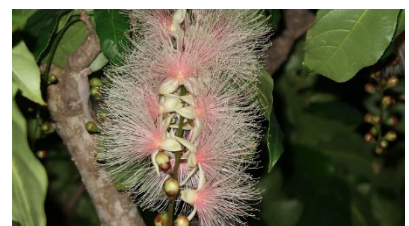
サガリバナ



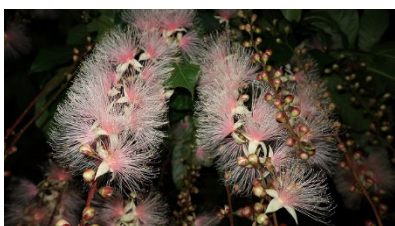
サガリバナ



サガリバナ



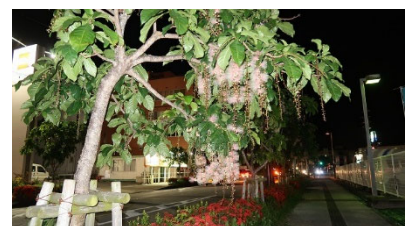
サガリバナ



サガリバナ



サガリバナ



街路樹としてのサガリバナ

沖縄サテライト校 デジタルレコード 2019 No.8

タイトル	久米至聖廟（久米孔子廟）
撮 影 日	2019 年 7 月 16 日（火）9 時頃／8 月 6 日（火）14 時頃
撮 影 地	沖縄県那覇市久米（沖縄県南部地域）
撮 影 者	眞喜志悦子
撮影環境	晴天
権利処理	撮影許可書／（利用についての）承諾書
説 明	久米至聖廟（孔子廟）は儒学の祖である孔子とその門弟（四配：顔子・曾子・子思子・孟子）を祀る廟である。至聖門をくぐると、正面に至聖廟の本殿「大成殿」が建っている（南向き）。表には畳 1 枚ほどの大きさの扁額「大成殿」が掲げられ、殿内中央には孔子像と神位、左右に四配の神位が置かれている。また、大成殿の別室として啓聖祠があり、啓聖祠には孔子の父である叔梁紇（啓聖公）と四配の祖先が祀られている。啓聖祠は平成 25 年の移転により 69 年振りに復興した。敷地内にある建物 明倫堂は、元は久米村の子弟に儒学を中心に官和（中国の公用語）、外交文書の書き方などを教える学問の府で琉球初の公立学校であったが、現在は 2 階の講堂で公開講座「久米孔子塾」を開設するなど、市民や地域に開かれた施設となっている。天尊廟（天尊廟地）天妃宮（天尊廟地）は移転前の敷地にある。
索 引 語	孔子, 至聖廟, 孔子廟, , 久米村, 儒学,
備 考	福州園の隣接地に移転後の新施設と周囲の様子を記録。

◇ 資料画像（一部）



至聖門



至聖門



至聖門



至聖門



大成殿と明倫堂



大成殿



大成殿の石柱と扁額



大成殿の扁額



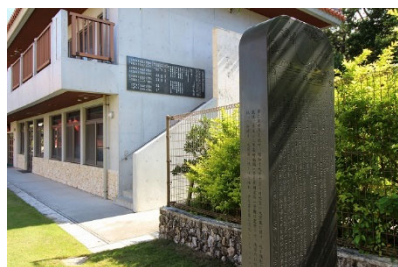
明倫堂



境内から見た至聖門



至聖門脇の中山孔子廟碑



中山孔子廟碑と明倫堂



大成殿内（正面）



大成殿内 孔子像と神位



大成殿内 孔子像と神位



大成殿内 孔子像と神位



神位「大成至聖先師孔子」



大成殿内 四配の神位（左）



大成殿内 四配の神位（右）



啓聖祠



啓聖祠内の孔子の父 叔梁紇（啓聖公）と四配の祖先

沖縄サテライト校 デジタルレコード 2019 No.9

タイトル	首里城公園と周辺
撮影日	2019年12月21日(土) / 2020年1月11日(土)
撮影地	沖縄県那覇市首里(沖縄県北部)
撮影者	加治工尚子 / 加藤真由美 / 他 学部生、院生
撮影環境	晴天
権利処理	未処理 ※今後権利処理を行う予定
説明	尚巴志の琉球統一から琉球処分までの約450年間、歴代の琉球王国の居城であり、政治・行政・宗教・文化の拠点であった。沖縄戦を含め、過去4度全焼している。2019年10月31日(木)未明の首里城火災により、正殿を含む7棟が焼失した。約30年かけた復元作業を終えたばかり。翌年2月10日再建に向け、御庭に積み上げられたがれきや焼け残った瓦などの撤去作業をはじめた。今後焼け残った南殿や北殿を解体し、2020年ゴールデンウィークの公開を目指しているとしている。
索引語	首里城、首里城公園、琉球王国、火災、焼失
備考	火災後、公開エリアは徐々に拡大してきており、その都度記録を行っている。

◇ 資料画像 (一部)



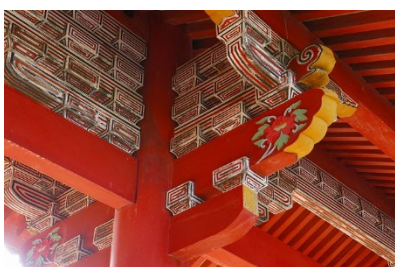
火災を免れた守礼門



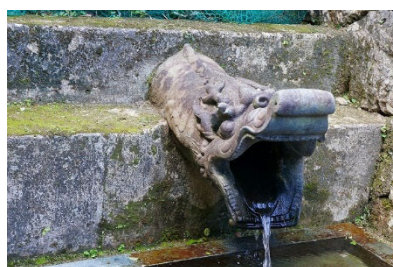
火災を免れた守礼門



火災を免れた守礼門



火災を免れた守礼門



瑞泉門脇の御龍樋



瑞泉門脇の御龍樋



広福門エリアより安全柵越しに
撮影した焼け焦げた赤瓦



安全柵で囲まれた奉神門エリア
火災で壊れた赤瓦



安全柵で囲まれた奉神門エリア
「立入禁止」の看板



安全柵で囲まれる首里森御嶽



焼け焦げた赤瓦



焼け焦げた赤瓦

■ 奉神門右脇から京の内へ抜ける小路からみた御庭の様子



御庭の全体の様子



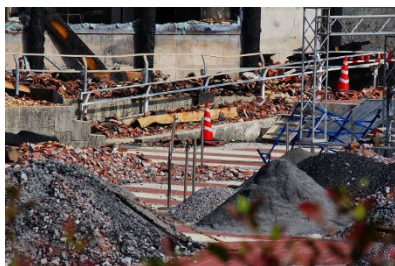
御庭の全体の様子



正殿前の大龍柱



黒焦げた北殿の表柱



御庭に積み上げられたがれき



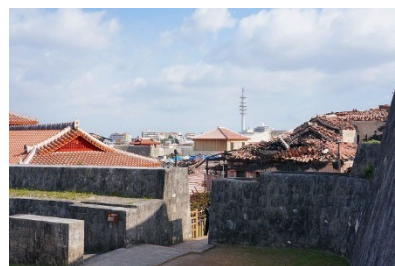
激しく燃えた屋根の一部



赤瓦が散乱する屋根



赤瓦が散乱する屋根の全体



かつては美しい正殿がみえた

